

むごいほど、そなたは美しい。

嗤う伊右衛門

Eternal Love

唐沢寿明 小雪

香川照之 池内博之 六平直政・井川比佐志・MAKOTO 松尾玲央 藤村志保 椎名桔平

蜷川幸雄監督作品 原作:京極夏彦 『嗤う伊右衛門』(角川文庫/中央公論新社刊) 脚本:筒井ともみ 音楽:宇崎竜童

エグゼクティブプロデューサー:角川歎夢 企画:江川信也 プロデューサー:中川好文・道祖上 健・椿 宜和・前田茂司

撮影:藤石 修 照明:渡辺三雄 美術:中澤克巳 録音:中村 淳 編集:川島章正

製作:『嗤う伊右衛門』製作委員会(角川書店、あすか企画、レミラックジャパン、IMAGICA、ジャパン・デジタル・コンテンツ、東宝)

制作:トスカドメイン 制作協力:松竹京都映画 製作費助:角川出版事業振興基金 配給:東宝

©2003「嗤う伊右衛門」製作委員会



PG-12

12歳未満の方には、なるべく保護者が
同伴してください。

生涯一度の恋、それが悲劇のはじまりだった…。物語

切腹を命ぜられた父親の介錯をした後、浪人に身を落としていた境野伊右衛門（唐沢寿明）は、御行乞食の又市（香川照之）に民谷家への婿入り話を持ちかけられる。民谷家の娘、岩（小雪）は、悪い病を患いその美しい顔の片側が崩れてしまっていたが、凛とした態度を貫いている誇り高き女であった。伊右衛門は岩と夫婦となるが、当初、岩は家長らしくない伊右衛門の言動を嫌悪した。一方、伊右衛門も岩の心底を汲み取れないでいた。しかし、二人は次第に互いを理解し深く愛しあうようになっていく。

かつて岩の顔が崩れる前に執拗に岩を求めていた筆頭与力・伊東喜兵衛（椎名桔平）は伊右衛門と岩の仲が睦まじいことが面白くなかった。伊右衛門と岩の絆はその深い思いを逆手にとった喜兵衛の奸計によって引き裂かれ、二人は別離を余儀なくされる。すべては運命と、世を捨て流されるままに生きてきた伊右衛門だったが、岩との愛だけは別だった。岩を取り戻すべく、伊右衛門は一命を賭してある行動に出る…。

（上映時間2時間08分）

世界の蜷川が描く究極のエロチズム—それは、狂気か純愛か。 —あなたは、この毒を飲み干せますか?—



解説

蜷川 VS 京極
狂気とエロスに彩られた
美のコラボレーション

江戸時代の怪談文芸の継承者たることを自他ともに認める京極夏彦が、「岩」の怨念による悲劇を描いた古典的名作である「四谷怪談」を、斬新な視点と独自の文体で全く新しい究極の純愛物語に再創造した渾身の原作を、世界的演出家・蜷川幸雄がその持つ演出生力の全てをかけて映画化する。2つの美学のコラボレーションが生み出す最上級の悲劇は、力強く美しい作品として観客の魂を激しく揺さぶることだろう。

日本映画史上最も美しい
「岩」が生まれる。
「岩」が生まれる。

岩の顔は醜くゆがんでいるが、その精神はどこまでも高貴である。しかしそんな「岩」もやがては、人間の深い業の織り成す狂気の奔流の中で「正気」を保ちきれなくなっていく。恐ろしいが、美しい：「岩」。映画「囁う伊右衛門」では、従来の「四谷怪談」の「岩」のイメージを根底から覆す神々しいまでに美しい「岩」が誕生する。

「恨めしいほどに、愛しい」
『伊右衛門』と
『岩』の戀愛の物語

心の底で激しく互いを求めるが、悲しい運命に引き裂かれていく「伊右衛門」と「岩」。二人をとりまく常軌を逸した情念の世界に生きる偏愛者たち。映画「囁う伊右衛門」は、愛と憎、美と醜、正気と狂気がダイナミックに絡み合いながら「究極のエロチズム」を描く愛と激情の物語である。

2004年2月 ヴァージンシネマズ 六本木ヒルズ 他 全国ロードショー